

盲導犬の仕事

盲導犬の仕事を大きく分けると...

- ◆ 道の左端（時により右）に沿って歩く。
 - ◆ 障害物を避けて歩く。
 - ◆ 段差や交差点で止まって知らせる。
 - ◆ ドアやエスカレーター、改札などの目標物を探す。
- ...などです。



盲導犬はナビ？

盲導犬に「郵便局まで行って」「駅まで連れて行って」といえば、ナビのように誘導して目的地に連れて行ってくれるわけではありません。ユーザーは頭の中にある地図によって、盲導犬に指示を出します。

盲導犬ではなく、ユーザーに

もし、ユーザーが道に迷っているようだったら、「何かお手伝いしましょうか？」など、ユーザーに声をかけてください。また「今、信号は赤ですよ」「 行きはバスですよ」などと声をかけていただくととても助かります。

盲導犬は大切なパートナー

ユーザーは盲導犬のシャンプー・ブラッシングから健康管理まで盲導犬の生活の全てに責任をもち、愛情をもって接します。だからこそ盲導犬もユーザーを信頼し、仕事も喜んでいるのです。盲導犬は家族の一員です。

盲導犬に出会ったら

「お仕事中です」

ハーネスをつけた盲導犬はユーザーが安全に歩行できるよう仕事に集中しています。声をかけたり、触ったり、口笛で呼んだりせずにそっと見守って下さい。



食べ物はやらないで

盲導犬は決まった時間にユーザーが決まった食事を与えます。それがくずれると、おなかの調子がおかしくなりかねません。水や食べ物はやらないで下さい。

怖がらないで

盲導犬は吠えたり、かんだり、人に危害を加えることはありません。犬が嫌いな人も怖がらないで静かに見守って下さい。

ペットと散歩中だったら...

さりげなくサッと通り過ぎていただくとは難しいです。また挨拶は盲導犬にではなくユーザーにして下さい。

盲導犬ユーザーを誘導するときは

腕や手をつかんで引っ張ったりせず、あなたの肘や肩につかまってもらい、時には言葉で方向を伝えて下さい。盲導犬のハーネスにはさわらないでください。また、駅のホームや工事現場などで危ないと思ったら、「止まって下さい」と言って、先ず止まってもらって下さい。

盲導犬の一生

「誕生」

「ブリーディングウォーカー」と呼ばれるボランティアのお家で生まれます。親犬と一緒に生活するのは約2ヶ月間です。



パピーウォーカーと

パピーウォーカー（子犬育成ボランティア）のお家にあずけられ、普通の家庭犬と同じように愛情たっぷりに育てられます。



訓練センターへ

「音や匂いに過敏に反応しないか」「従順でおとなしい性格か」など、盲導犬としての適性があると判断された子犬は、その後4～6ヶ月間「仕事に集中する」「人の指示にしたがう」といった基本から「段差で止まる」「障害物を避ける」など専門的動作の訓練を受けます。

パートナーとの共同訓練・現役で活躍

盲導犬を希望する人と、4週間センターと一緒に生活して、共同訓練を行います。その後、約10歳になるまで、盲導犬ユーザーのパートナーとして活躍します。



引退

年を取ると、だんだんと運動能力が落ち、盲導犬として活躍できなくなります。パートナーとお別れして、リタイアウォーカー（引退犬の世話するボランティア）のお家でのんびり余生を過ごします。